

(4) 運動型細胞観察試験 4 (攪拌刺激による出現推移)

攪拌刺激と運動型細胞出現推移との関係を図10に示した。出現推移は各区共通して刺激後40～80分経過時に出現率は最高値を示し、徐々に低下した。出現率は手振り攪拌区に比較してハンドミキサーで試料800mlを攪拌した3区共2倍以上の値を示した。Dの20秒区は全試験区中最大の2.4%を示し、刺激後の経過時間も280分と最も長く運動型が出現し続けた。刺激が強いBの30秒区は出現率の最高値、経過時間の長さ、共にCの10秒区に劣った。

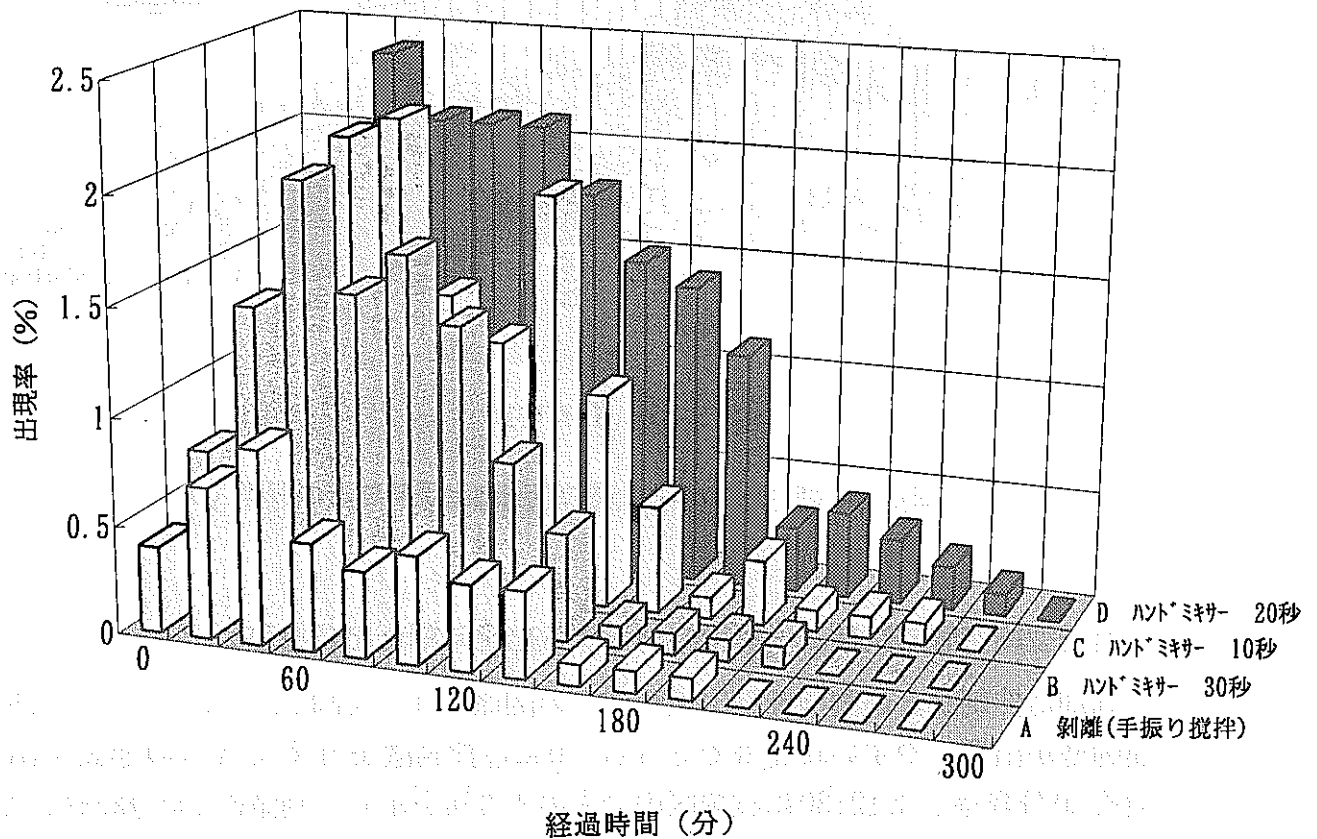


図10 攪拌方法と運動型細胞出現推移との関係

(5) 運動型細胞観察試験 5 (攪拌時刻による出現時刻 I)

時刻別攪拌刺激と運動型細胞出現時刻との関係 (I) を図11に示した。光条件において運動型が出現しやすい時間帯である10:30に試料を採取したA・B・C区は60～150分後に出現率は最高値を示し、それ以後330～390分出現し続けた。この試験においても試験4同様にハンドミキサーで20秒攪拌したC区の出現率は全試験区中最大の2.1%を示した。照明停止30分後の20:30にA・B・C区同様に試料を採取したA'・B'・C'区は3区共に120分経過しても運動型は出現しなかった。翌日、照明開始する直前に同様に試料を採取したA''・C''区も30分経過しても運動型は出現しなかった。